

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第4区分

【発行日】平成20年3月13日(2008.3.13)

【公開番号】特開2005-176594(P2005-176594A)

【公開日】平成17年6月30日(2005.6.30)

【年通号数】公開・登録公報2005-025

【出願番号】特願2004-349509(P2004-349509)

【国際特許分類】

H 02 P 29/02 (2006.01)

G 01 K 5/64 (2006.01)

H 01 H 37/14 (2006.01)

H 01 H 37/54 (2006.01)

【F I】

H 02 P 7/00 U

G 01 K 5/64

H 01 H 37/14

H 01 H 37/54 D

【手続補正書】

【提出日】平成19年5月23日(2007.5.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

モータ保護装置であって、

縦軸と、底壁部と、開放端部を形成している前記底壁部から上に延びていて、前記開放端部の少なくとも2つの対向側面上に一部を有する横方向にまた外側に延びるフランジと一緒に形成されている自由端部を有する側壁部と、スイッチ・チャンバとを有するハウジングと、

前記ハウジング部材に電気的に接続している前記スイッチ・チャンバ内に位置する可動接点を有するサーモスタッフスイッチと、

前記フランジ上に位置していて、前記ハウジング部材の前記開放端部と整合している開口部を有するガスケットと、

前記ガスケット上に収容され、前記ハウジングに取り付けられている第1および第2の間隔を置いた部分を有する蓋であって、前記蓋の一部の少なくとも一方が、凹状の引っ込んだ部分を形成しているドームを有する部分と一緒に形成されている蓋と、

ほぼ螺旋形を有し、第1および第2の端部を有し、前記端部が各間隔を置いた蓋の一部に電気的に接続していて、前記螺旋形の部分が前記2つの蓋の一部の凹状の部分に収容されていて、そこから間隔を有する細長いヒータ素子とを備えるモータ保護装置。

【請求項2】

前記凹状の部分を形成している前記蓋の一部の前記部分が、前記第1および第2の蓋の一部内を延びる、請求項1記載のモータ保護装置。

【請求項3】

前記ドームが前記縦軸に沿って延びる、請求項2記載のモータ保護装置。

【請求項4】

前記ドームが、一方の蓋の一部内に比較的短い縦方向の長さを有し、他の蓋の一部内に比

較的長い縦方向の長さを有する、請求項 3 記載のモータ保護装置。

【請求項 5】

各蓋の一部が、前記ハウジングのフランジ部分上に設置することができ、前記ガスケットを通して前記フランジ部分にクランプされるタブと一緒に形成されている 2 つの対向側面を有する、請求項 1 記載のモータ保護装置。

【請求項 6】

各蓋の一部上に形成されているヒータ素子溶接突起を含む、請求項 1 記載のモータ保護装置。

【請求項 7】

前記ヒータ素子の前記螺旋部分が、前記縦軸にほぼ平行な方向に延びていて、前記ヒータ素子の前記端部がほぼ横方向に延びる、請求項 6 記載のモータ保護装置。